

事例番号:280173

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 37 週 6 日 ノンストレステストでノンリアティブパターンを認めたため、当該分娩機関を  
紹介され受診、2 日間入院

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 6 日

13:40 外来受診、ノンストレステスト、基線細変動ほぼなし、潜在性胎児仮死(診  
療録の記載)のため入院、妊娠 39 週 2 日に分娩誘発予定

#### 4) 分娩経過

妊娠 39 週 0 日

15:30 陣痛発来

22:27 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 0 日

(2) 出生時体重:2900g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.16、BE は不明

(4) Apgar スコア:生後 1 分 6 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 新生児仮死、新生児一過性多呼吸

生後 20 日 退院

生後 1 ヶ月 啼泣に伴う一過性低酸素血症で入院、閉塞性の無呼吸と診断  
生後 11 ヶ月 全体的に伸展運動が主であり反り返り多い

(7) 頭部画像所見:

生後 11 日 頭部 MRI で左小脳半球に小さな T2 強調画像で高信号域を認める、脳出血

6) 診療体制等に関する情報

〈紹介元分娩機関〉

- (1) 診療区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 2 名

〈当該分娩機関〉

- (1) 診療区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数  
医師: 産科医 1 名、小児科医 1 名  
看護スタッフ: 助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

脳性麻痺発症の原因を解明することが極めて困難な事例であるが、妊娠 37 週 6 日以前に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経系障害の可能性を否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

- (1) 紹介元分娩機関における妊娠管理は一般的である。
- (2) 紹介元分娩機関において、妊娠 37 週 6 日、胎動を感じないことと胎児心拍数陣痛図の所見(基線細変動の減少)から胎児機能不全と判断し、当該分娩機関に紹介したことは適確である。
- (3) 当該分娩機関における妊娠 37 週 6 日の紹介受診時の対応(胎児心拍数基線細変動が乏しいため入院して胎児心拍数を翌日まで持続モニタリングしたこと、適宜超音波断層法を施行して胎児・胎盤を評価したこと、胎児が頻回の外来受診による妊娠継続が可能な状態にあると判断し、妊娠 38 週 0 日に退院、外

来管理としたこと)は基準内である。

- (4) 妊娠 38 週 6 日、胎児心拍数陣痛図の所見(胎児心拍数基線細変動の減少)から潜在性胎児仮死(診療録の記載)と判断し、同日管理目的に入院し妊娠 39 週 2 日より分娩誘発予定としたことは一般的である。

## 2) 分娩経過

- (1) 入院後および自然陣痛発来後の分娩管理(分娩監視装置装着、胎児心拍数陣痛図所見から経過観察および経膈分娩としたこと)は一般的である。
- (2) 妊娠 39 週 0 日の 18 時 10 分から 20 時 32 分の 2 時間 22 分、分娩監視装置の装着や胎児心拍数の聴取を行わずに経過観察したことは基準から逸脱している。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

## 3) 新生児経過

出生後の新生児蘇生処置および新生児管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 紹介元分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

- ア. 分娩監視の方法は、「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」に則して実施することが望まれる。
- イ. 臍帯動脈血液ガス分析値について、pH のみでなく  $PCO_2$ 、 $PO_2$ 、 $HCO_3^-$ 、BE も記録することが望まれる。

【解説】本事例では臍帯動脈血ガス分析について pH のみの記載であった。臍帯動脈血は胎児の酸塩基平衡の状態を反映しており、分娩前の胎児低酸素・酸血症の状態をより正確に推定するために  $PCO_2$ 、 $PO_2$ 、 $HCO_3^-$ 、BE の記載も必要である。

- ウ. 診療録に記載する用語は、「産科婦人科用語集・用語解説集」に従って使用することが望まれる。

2) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 紹介元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

分娩前に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例について集積し、原因や発生機序について、研究の推進が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。